

カルビーのスマートフォンアプリ「カルビー ルビープログラム」に スキャンディットのデータキャプチャ技術を採用

— 「折りパケ」の二次元コードのスキャン精度を向上し、ユーザビリティを大幅に改善 —

Smart Data Capture のリーダーであるスキャンディット合同会社（所在地：東京都渋谷区、代表：Samuel Mueller、以下：スキャンディット）とアイニックス株式会社（所在地：東京都目黒区、代表取締役：平本 純也）は、カルビー株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO：伊藤 秀二、以下：カルビー）が提供する自社初のスマートフォンアプリ「カルビー ルビープログラム」(以下、ルビープログラム)の二次元コードスキャン機能に、Scandit Smart Data Capture プラットフォームが採用されたことを発表しました。

カルビーでは2020年9月に自社初となるスマートフォンアプリ「ルビープログラム」を発表し、お客様とのコミュニケーションを進化・深化させています。「ルビープログラム」は、お客様が購入した商品の空き袋に印字されたシリアルコードと二次元コード（DataMatrix）が表示されるよう、指定の方法で小さく折りたたんだ「折りパケ」を撮影することで、特典ポイント(ルビー)を貯めることができるアプリです。これにより、同社は購入された商品の特定と消費の確認が可能となり、消費者キャンペーンへの活用や、お客様の購買情報をもとにしたコミュニケーションができるようになりました。

しかし、パッケージの性質上、印字されたコードが歪みや光の反射などにより、アプリ発表当初に使用していたライブラリではDataMatrixをうまく認識できないことがありました。そこで、カルビーではユーザビリティを向上するため、より精度の高いデータキャプチャ技術の導入が必要と判断し、製品の検討を開始しました。比較検証を行った結果、DataMatrixを高性能に読み取れるデータキャプチャ精度に加え、OCRや拡張現実（AR）といった機能の拡張性がありソフトウェアとして利用用途が幅広いこと、そして問い合わせへのスピーディ且つきめ細かな対応といったサポート体制を評価し、2021年3月にスキャンディットのScandit Smart Data Captureの導入に至りました。

スキャンディットのデータキャプチャ技術を活用することで、「折りパケ」の読み取り精度の改善に加え、キャプチャしたDataMatrixを青色のARで視覚的に表示できるようになり、ユーザビリティの向上にもつながりました。

「折りパケ」のデータキャプチャ画面



画像 1 :
DataMatrixの読み取りが完了していない場合、枠が赤色で表示される。



画像 2 :
正常に読み取れた「折りパケ」は、認識したDataMatrixが青色AR表示され、枠が緑色になる。

Scandit Smart Data Capture の採用について、カルビー株式会社マーケティング本部 CX デザインチーム マネージャー 関口 洋一様は次のように述べています。「アプリを介したお客様とのコミュニケーションの入り口ともいえるデータキャプチャの課題が解決されたことは、ユーザビリティの向上に直結しました。DataMatrix のスキャン精度だけでなく、画像認識したことが画面越しで表示され、どこを読み取っているのかが分かりやすくなったことは、カルビーが目指す UX にかなうものでした。アプリ自体のユーザー数が増加する中、スキャンに起因するお客様からのお問い合わせが以前と比べ格段に減ったこともスキャンディットのデータキャプチャ技術を導入した効果の一つだと考えています。今後もより一層カルビーならではの体験価値をお客様に提供できるようなコミュニケーションを確立していきたいと考えています。」

スキャンディットについて :

スキャンディットは Smart Data Capture 領域におけるリーダーであり、「比類のないスピード、正確性そしてインテリジェンスですべてのビジネスパーソンとコンシューマに Superpower（超越した力）」を提供します。Scandit Smart Data Capture プラットフォームはスマートフォン、ドローン、デジタルアイウェア、ロボットなどのスマートデバイスで使用でき、バーコード、テキスト、身分証明書（ID）に加え、オブジェクトからもデータを認識して、エンドツーエンドのプロセスの自動化とインサイトをもたらします。

スキャンディットのテクノロジーはハンディターミナルと比較して最大 3 倍の速さでデータを正確にスキャンし、汚れや傷によって読みにくいバーコードや、光の反射や角度による悪条件下でもストレスなくスキャンできます。スキャンディットを活用したイノベーションにより、大幅なコスト削減、従業員の利用定着率と顧客満足度の向上を実現します。スキャンディットは製品トライアル、ソリューション設計、インテグレーションからカスタマーサクセスまで全面的にお客様をサポートします。

イオンリテール、オーケー、東急ハンズ、U.S.M.H、ヤマト運輸、Instacart、Levi's Strauss、FedEx、NHS（英国国民保険サービス）など、小売、輸送・物流、ヘルスケア、製造業のマーケットリーダー企業がスキャンディットを活用しています。

詳細については、www.scandit.com/jp をご覧ください。

アイニックスについて：

アイニックスは、自動認識技術（Auto-ID）とネットワーク技術（Network）、及び、システム技術（Integration）により新しい価値を創造することを目的に設立されました。自動認識技術の導入コンサルティングから自動認識関連機器の販売、自動認識パッケージソフト開発、そして、製造・物流・流通などのシステム構築まで、自動認識ソリューションをワンストップで提供しています。

モバイル領域においても、アイニックスはスキャンディット社のパートナーとして、高性能なスキャンディット製品を利用したお客様の業務効率化・顧客満足度の向上を実現します。モバイルコンピュータ、タブレット、無線 LAN 機器、モバイルミドルウェア、モバイル通信サービス(AINIX MOBILE)、モバイル関連システム構築を通じて、包括的なサポートが可能ですので、お気軽にご相談ください。

アイニックス社ウェブサイト: www.ainix.co.jp

■ 報道機関からのお問い合わせ先：

スキャンディット合同会社 広報（共同ピーアール株式会社内）

担当：仙場・大川

TEL：03-6260-4863

E-mail：scandit-pr@kyodo-pr.co.jp